

私の思い出の山

神山小学校 六年 平田 あかり

私が一度だけ行ったことある思い出の場所。その場所は白谷雲水峡。その思い出が生まれしたのは一年以上前の五年生の時の宿泊学習のとき。三子山でのぼったこと、くもりでなにも見えなかったこと。この山に刻まれた思い出をくわしく思い出そう。

初めへの登山。少しドキドキな自分、楽しみな自分、不安な自分、登る前、私の中には

屋久島町立神山小学校

約三人の自分がいた。その自分の分身としてもに登りはじめた。

あと半分というところまで来た、そのときは、つかれた自分、不安な自分、楽しい自分の三人。これら三人とともにうつくしい自然を見ながら歩いていった。ここからは不安な道もたくさん出てきた。一人ではのぼれない山、仲間といると楽しい山また二つの思い出ができた。

あとはこと坂をのぼれば頂上というところ

まで来た。その時には四人の自分の分身かいる。つかれた自分、おなかのすいた自分、楽しい自分不安な自分、さっきより一入増えた。ここでごはんを食べるいつもよりおいしくかんじる。なんでだろう。つかれているから？みんないっしょだから？それともミナウ思いながうたべていた。

あと少し。でも待ちうけているのは、かなり急な坂。もう足はパンパンなのに、これが下り坂だったらよかったのに、みんなことも

屋久島町立神山小学校

思った。あと三十歩、二十歩、十歩、三歩、二歩、一歩。

やっとなついた。大石。でも、下を向いたら、チーン、私の顔は、ほほ真顔。その理田は、雲で何も見えないから。下を見ても木も林も森も、とおくの山も、とおくの町も。でも仲間や友だちとのほつたこと、みんながいると、自分の気もちがおちついてきたこと、いろいろなこと、気付かされたのは、この白谷雲水峡だ。

この日私はいろんなことに気付いた。だからこの思い出をわすれてはいけないと、
四人の私の分身と一人の私を感じる。

屋久島町立神山小学校